

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (マネジメント)	氏名 (Author)	林 釗
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title) Pay What You Want 方式の経験が顧客の価値共創への参加意志に及ぼす影響 —顧客のパワーを通じた影響—			
論文審査担当者 (Dissertation Committee)			
主査	(Committee chair)	准教授 相馬 敏彦	印
審査委員	(Committee member)	教授 加藤 厚海	印
審査委員	(Committee member)	教授 盧 濤	印
審査委員	(Committee member)	教授 Vesa Peltokorpi	印
審査委員	(Committee member)	教授 村松 潤一 (岡山理科大学)	印
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)			
1. 概要 Pay What You Want (以下 PWYW) とは、消費者が企業に支払い分だけ支払うことのできる支払い方式である。この方式では、企業が予め支払い額を指定する固定価格方式などと異なり、支払金額の決定権全てを消費者が有する。従来、PWYW の効果性をめぐる研究の大半は、短期的な取引の文脈での収益メカニズムに焦点をあててきた。しかし、PWYW 経験が顧客をエンパワーする可能性に着目するならば、PWYW には顧客の企業に対する長期的な関わりを促進する機能が予想される。特に、消費プロセスにおける企業と顧客との相互作用の重要性を指摘する価値共創マーケティングの視点から捉えるならば、PWYW のもつ上記の機能は大きな示唆をもたらす。顧客の企業との相互作用、すなわち価値共創への参加意志を PWYW 経験によって高めうるからである。このような背景の下、本研究は PWYW の経験が当事者の価値共創への参加意志にもたらす影響を、パワー知覚の機能に関する心理学の理論を援用して解明した。			
2. 論文の構成 本論文は、序章と終章を含めて9つの章から構成される。各章の概要を以下に示す。 序章では、本研究の目的と問題の所在を述べる。 第1章では、伝統的な価格決定方式と対比させながら、参加型価格決定の仕組みを説明し、その中での PWYW の特殊性を浮き彫りにする。 第2章では、PWYW の効果をめぐる先行研究をレビューし、それらが収益性や支払金額の規定因といった収益メカニズムに特化したものであったと指摘する。つまり、PWYW のもつ効果性を交換の文脈に限定して捉えてきたことを明らかにする。 第3章では、価値共創マーケティングへと議論を展開する。消費プロセスにおける価値が、企			

業と顧客との相互作用によって生み出されることを強調するこのアプローチでは、企業のみならず顧客もまた価値共創への参加意志をもつ必要があり、その条件の解明が課題とされていた。そして、この課題解決に向けて、顧客の PWYW 経験がその後の価値共創への参加意志を高める可能性が演繹的に導出される。

第4章では、PWYW 経験が価値共創への参加意志を高めるメカニズムを、パワー知覚の接近・抑制理論を援用して説明する。PWYW 経験と並行してパワーを知覚し、かつ企業との相互作用を志向する場合、顧客の価値共創への参加意志が高まることを仮説として整理する。

第5章では、仮説検証のための実証フレームとして、オンラインでの音楽試聴場面を設計し、その手続きを詳述する。対称条件として固定価格を設けた上で、事前事後のパワー知覚の変化を測定し、試聴後の価値共創への参加意志を測定した。

第6章では、仲介モデルと調整モデルの二つの仮説のいずれが妥当かを、一般線形モデルによって検証し、後者のモデルが妥当であると結論づける。

第7章では、結果を整理し、それぞれのもつ含意について考察する。

終章では、全体の総括と同時に、今後検討されるべき課題を示した。

3. 論文に対する評価

本研究の学術的含意は、大別して二つある。第一は、PWYW 経験が価値共創への顧客の参加意志を高めるメカニズムとして、パワー知覚による目標接近という心理プロセスが関与することを実証し、PWYW と価値共創マーケティングとの有機的な接合可能性を示した点である。第二は、価値共創への参加意志を従属変数に設定したことで、PWYW 経験の効果を単なる収益メカニズムから企業と顧客間の長期的な関係性への拡張した点である。また、実践的な含意として、価値共創の収益以外の効果がみられる条件を示したことで、マーケティング戦略の構築に資する点をあげることができる。

以上、審査の結果、本論文の著者、林 釗 は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があると認められる。

備考 要旨は、1,500 字以内とする。